



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和4年7月11日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ ココロねっこ運動強調月間

今月は「長崎県ココロねっこ運動強調月間」です。
ところで、「ココロねっこ運動」ってご存知ですか？



ココロねっこ運動とは

子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。

また、長崎県ではあいさつ運動や地域で子どもを見守る活動など、子どもの健全育成のための取組を「ココロねっこ運動」として推進しています。

平成13年度からスタートした運動で、平成20年10月には「長崎県子育て条例」の中で県民運動として取り組むことが定められました。

大人が変われば子どもも変わる ～大人のあり方を見直す～

子どもは、親や身近な大人を成長のモデルとします。モデルである私たち大人が、ルールやマナーを軽視したり、人間関係のわずらわしさから他者と関わらずに生活したりしようとするのは、子どものよき手本となることでしょうか？

「子どもは社会を映す鏡」です。もし、子どもに問題があるとすれば、それは大人自身の問題として考えてみる必要があります。

できることから、大人から

子どもの育ちには、家庭が果たす役割が重要であることから、第3日曜日を標準日として、家族が子どもを中心としたふれあいを深める日としての「家庭の日」が広がるよう努めています。

※長崎県青少年育成県民会議のホームページから引用

そこで各御家庭では、皆さん当然、御存知の「あ・は・は運動」を意識した取組をお願いします。（長崎市が幼・保・小・中一貫して取り組んでいることです。）本年度、三原小では、さらに「は」を足した

「あ・は・は・は運動」に取り組んでいます。

あ…あいさつ・へんじ ふわふわことば！

は…はやね・はやおき・あさごはん！

は…はきものそろえ いい気持ち

は… はさみあるきをしっかりと！

子どもたちが安心して生活できるための「心理的安全性」は、まず言語環境を整えることから！

いろんな年齢の子どもたちが、共同生活する学校というところで、まわりの人を思いやる気持ちが大切ですね！

※波線は今年度から取り組んでいることです！

三原に吹く風

さて、三川中学校の3年生が、平和学習の一環として、被爆紙芝居を三原小の6年生に発信したいという申し入れがあり、7月6日（水）に交流をすることができました。被爆体験者の語り部さんが実際に体験した話をもとに、三川中の卒業生が制作した版画をデジタル化しての発表でした。効果音もあり、6年生も関心をもって見ることができました。今まで頑張ってきた被爆体験者の方々の高齢化が進んでいます。先日の永井徳三郎さんの話といい、今回の紙芝居といい、戦争体験を風化させずに、いかに平和希求の思いを継承していけるかという学びに変化しつつあるのだなあ実感した会でした。中学生の発信を受け、しっかりと感想を述べた6年生に感心しました。



宮原のつぶやき

熱中症が心配された5年生の野外宿泊学習。この2年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、1泊2日の活動でしたが、今年度から2泊3日が復活し、オープンしたばかりの長崎市恐竜博物館、お魚さばき体験、オリエンテーリング、ナイトハイク、野外炊さん（カレーづくり）など、たくさんの体験活動を行うことができました。2年ぶりのことです。科学館・原爆資料館見学も2年ぶりに行くことができました。日吉自然の家では、三原の誇り「挨拶」もばっちり、返事もばっちり、協力もばっちりで、さすが5年生！というところでした。

最近、また感染者増加の傾向で心配ではありますが、1学期からずっとリーダーとして頑張っている6年生の修学旅行も何とか無事行われてほしいと願っているところです。玄関横の三川中美術部が描いてくれた育成協の七夕飾りにも、6年生の切なる願いが飾られているのを見て、「日頃の行いがいいから、きっと叶えてください。」と心からお願いしました。